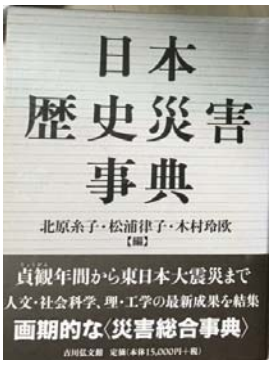
狩野川台風に似たコースの台風 19 号

10 月も中旬というのに、ことし(ネットでは人類史上)最強の台風 19 号が日本列島を直撃しつつある。大阪でも先ほどまで風雨が吹き荒れていた。図書館も休館になり、朝から落ち着かない。伊勢湾台風の経験からか、台風には敏感だ。書棚から写真の『日本歴史災害事典』吉川弘文館、2012 年を取り出して、狩野川台風の項目をチェックした。今回の台風が、伊勢湾台風前年の狩野川台風と似通っているからだ。事典から狩野川台風を振り返ってみよう。



1958 年 9 月 21 日、グアム島の東海上で発生した熱帯低気圧は台風となり、その後、どんどん発達して北東に進む。26 日夜、伊豆半島の南端をかすめて三浦半島に上陸し、東京を通過して三陸沖に向かった。台風の影響により大雨が続き、とくに伊豆半島では 700 ㍉を上回る豪雨となった。伊豆地方では狩野川の氾濫によって、死者・行方不明者が 900 名を超えるなど、大きな被害が発生した。

図1 狩野川台風の経路図

9 月 26 日の日雨量は東京で 371.9 ㍉、横浜で 287.2 ㍉と、関東地方でも記録的な大雨となり、大災害が発生した。東京都では、郊外の宅地化に下水道整備が追いつかないことなどから、ゼロメートル地帯の広がる下町だけでなく、「山の手水害」と呼ばれる水害が発生した。中小河川や水田など、以前は降雨の排水口などの役割を果たしていた土地が埋め立てられて住宅地に変わり、行き場のなくなった雨水があふれたためで、東京の深刻な問題となる。東京都の浸水家屋は 33 万戸と、死者数が非常に大きかった静岡県全体の 20 倍にも達したため、1947 年制定の災害救助法が東京都に初適用された。

横浜港の後背地の新興住宅地ではがけ崩れが相つぎ、705 棟が壊れ 61 名が死亡するなど、東京や横浜での死傷者の多くは、戦後斜面を削って建てた住宅が密集していた所でのがけ崩れ・土砂崩れによる災害であった。これは、その後増大してきた新しい災害形態であり、これらの新しいタイプの災害について、現在はさまざまな対策がとられている。しかし、当時とは比べ物にならないくらいの都市化が急激に進んだ現在は狩野川台風並みの雨はいまだ経験していない。

現在進行中の台風 19 号は、狩野川台風並みか、それ以上の風雨が予想されている。静岡県だけでなく、東京や横浜をはじめ首都圏、関東全域での甚大な被害が出ないことを願うばかりである。台風情報を気にしながら、12 日午後にレポートを書いた。

(2019 年 10 月 13 日)